

校長通信 VOL1 H25.5.8

平成25年4月1日をもって校長として着任した下山と申します。素晴らしい学校に着任できたことを光榮に思うとともに、その責任の重さを痛感しております。本校のHPは大変充実しており、様々な教育活動について発信しておりますが、校長といたしましても、本校の生徒諸君、保護者の皆様、あるいは本校を目指す中学生の皆さんを念頭において、自らの考えをお示ししたいと考えました。今後、不定期にはありますが、「校長通信」を発行する予定ですので、よろしくお願いいたします。



本校には「**流汗悟道**（りゅうかんどう）」という校是があります。「流汗」とは、汗を流すこと、「悟道」とは、道を悟ることです。すなわち「流汗悟道」とは、何事にも真剣に体ごとぶつかって大いに汗をかいて努力するところから、自分の求めるものが見えてくるという意味です。高校時代は、人生の土台をつくる時期にあたります。努力の継続に比例した飛躍が必ずある、ということ信じ、ぜひ、この校是を自らの座右の銘にしてもらいたいと思っています。

校訓の「**立志・探究・奉仕**」は、校歌を出典としており、長く受け継がれてきたものです。3つのうち、最初の「**立志**」とは、志を立てること、目的を定めてこれをなしとげようとすることです。校歌の一節にある「われら歴史をつくる者」という自覚のもとに、大きな志を立て、その志に恥じることのない生活を送ってもらいたいという願いが込められています。

次の「**探究**」とは、物事の真理をさぐって、これを見きわめることです。およそ学問を志す者は、校歌の一節にあるように「真理ひとすじ尋ね行く」気概がなければなりません。本校では、自ら学び、考える、そしてこれを表現して伝えるという主体的な学習が求められています。

そして、最後の「**奉仕**」とは、私心を捨てて、国家・社会・他人のために働くことであります。何のために学ぶのかと言えば、それは、社会において、しっかりと自らの役割を果たすためであります。「人の世の幸を呼び、鍛えて永久の土に立つ」という校歌の一節は、まさにそのことを歌っています。

さて、校訓の「奉仕」と関連して、「学ぶ意味」について申し上げたいと思います。学ぶ意味とは「なぜ、勉強するのか」ということでもあります。「なぜ、勉強するのか、何のために勉強するのか」と言えば、それは自らの能力を高めるためという答えが返ってくると思います。そのとおりです。

それでは、なぜ、自分の能力を高める必要があるのでしょうか。私は、自分の能力を高めるのは、将来、

社会で立派に自分の役割を果たすためだと思っています。全ての人は、その役割を持って生まれてきたのだと思います。そのことに、自分自身で気がつくかどうかで人生は大きく変わってくるでしょう。

本校では、ほとんどの人が進学すると思いますが、やがて職業という形で社会との接点を持ちます。職業は、私たちの生活の基盤であり、人生における自己実現の方法ですが、それだけでなく、社会への貢献という面もあります。すなわち、私たちは職業を通じて社会をより良いものにしていかなければなりません。職業を通じて人を助けるということにもつながると思います。

自分の能力を高めるのは、将来の社会をより良くするためであり、今後の長い人生の中で職業を通じて人を助けるためです。決して自分一人だけのために今学ぶものではありません。将来君たちの助けを待っている人が必ずいます。そのまだ見ぬ誰かのために、今、自分自身の能力を最大限に高めてほしいと思っています。校訓にある「奉仕」とはそういうことを言っているのだと思います。

※以上は、平成25年4月8日の入学式式辞及び始業式校長挨拶をもとに、その一部を加筆修正したものです。